

はじめに

この書を手にとった方のなかにはマラキ書を開いたことがないという方、どこにあるかも分からないという方もおられるかもしれません。KGKでは2013年3月にもたれた全国集会（NC）の聖書講解で扱われ、全国各地でも備えがなされていたので、しばらくはマラキ書と親しみのある学生も多いかもしれません。

マラキ書は非常に現代的で、面白い書物です。一読すると厳粛な裁きの印象が残るかもしれませんが、それを貫く神の大きな愛が描かれてもいます。

しかし、用語などが難しいため、つい敬遠してしまうのではないかと思います。そのため、各回の冒頭に「語句研究」を設け、少しでも分かりやすくなるようにしました。

とはいえ、浅学の身ですので、調べの行き届いていないところもあるかもしれません。このブックレットをもとに、なおご自分で注解書や辞書を引かれることをお勧めします。

このブックレットは著者が関東地区の伊勢崎線・お茶の水ブロック祈禱会で語った連続講解説教が元になっています。会衆が説教者を育てると言われますが、二つのブロックの学生たちが真剣に耳を傾け、率直なレスポンスをしてくださったことには本当に助けられました。拙いことばを「神のことば」として聞いてくださったことに（1テサロニケ2:13）心から感謝しつつ、このブックレットがこの地にある宣教に少しでも用いられればと願っております。

2014年2月

関東地区主事 塚本良樹

※本文中の聖書は新共同訳聖書を使用しました。

目次

はじめに…1

聖書研究の方法…3

緒論 マラキ書とは？…3

1. 愛の証拠 (1:1～5) . . . 7
2. 畏れはどこに？ (1:6～14) …9
3. 礼拝共同体を保つ方 (2:1～9) . . . 11
4. なぜ契約を汚すのか？ (2:10～16) . . . 13
5. 契約の使者が来られる (2:17～3:4) … 1 5
6. 喜びの国となるために (3:6～12) … 1 7
7. 思い起こせ (3:13～3:24 [4:8]) … 1 9

聖書研究の方法

- ① 緒論を読みましょう。…初回はもちろんのこと、初参加者がいる場合はかいつまんで説明してあげましょう。
- ② 聖書テキストをじっくり観察しましょう。…いくつかの訳（新改訳聖書・新共同訳聖書・口語訳聖書・英語訳など）を読み比べてみましょう。分からない箇所はその場で無理して結論を出すことをせず、牧師・主事に聞か、注解書などにあたってみましょう。
- ③ 司会者は話しすぎないようにしましょう。…設問を参加者に読んでもらい、答えてもらいましょう。指名しなくても議論になるような聖研が望ましいです。Introductionはアイスブレイク用なので盛り上がることを主眼に置いてください。
- ④ 時間を守りましょう。…時間厳守。開始時間・終了時間をきちんと守りましょう。

緒論 マラキ書とは？

(1) 年表

- | | |
|--------|---|
| BC1000 | ダビデ王の即位 |
| BC922 | イスラエル王国が南北に分裂 |
| BC722 | 北王国がアッシリアにより滅亡 |
| BC586 | 南王国がバビロンにより滅亡 |
| BC539 | バビロンの滅亡 |
| BC538 | シュシュバツアルの指導のもと、イスラエルに帰還 |
| BC537 | ゼルバベル・ヨシュアによっていけにえが献げられる
(エズラ3:4) |
| BC536 | 神殿再建の開始 (エズラ3:8、6:3、5:16)、工事の中断
(エズラ4:4~5) |
| BC520 | ハガイ・ゼカリヤの宣教？、神殿工事の再開 (エズラ
4:24、ハガイ1:15) |
| BC515 | 神殿の完成 (エズラ6:15) |

(2) マラキ書の構造 (著者作成)

1. 愛の証拠 (1:1～5)

前文 (1:1)

神の愛への疑い (1:2)

神の選び (1:2～4)

世界の王としての神 (1:5)

2. 畏れはどこに? (1:6～14)

ひどい礼拝 (1:6～14)

世界でもたれる礼拝 (1:11、14)

3. 礼拝共同体を保つ方 (2:1～9)

神の警告 (2:1～4)

祭司のあるべき姿 (2:5～7)

祭司の現実と裁き (2:8～9)

4. なぜ契約を汚すのか? (2:10～16)

異宗婚の問題 (2:10～12)

離婚の問題 (2:13～16)

5. 契約の使者が来られる (2:17～3:4)

神の義への疑い (2:17)

精錬と聖化 (2:16～3:4)

裁きのことば (3:5)

6. 喜びの国となるために (3:6～12)

変わらない方 (3:6)

十分の一の献げ物をせよ (3:7～12)

7. 思い起こせ (3:13～3:24 [4:8])

神の義への疑い (3:13～14)

民の悔い改めを喜ぶ神 (3:15～17)

「その日」における喜びと裁き (3:18～21)

モーセの教えを思い起こせ (3:22)

預言者エリヤの派遣と警告 (3:23～24)

(3) 時代背景

マラキ書の舞台は、バビロン捕囚後、アケメネス朝ペルシャ帝国という国に支配されたイスラエルであると考えられています。その時代、イスラエルの民は「苦難」と「疑い」のなかに置かれていました。

マラキ書が書かれたのは、エズラ記・ネヘミヤ記と同時代だと思われます。1:8に「総督」ということばがあり、ここからペルシャの時代だと言う学者も多いですが、これは「つかさ」とも訳されうることばで、ペルシャ時代とも限らないようです。しかし、どちらにせよ、内容的には、エズラ・ネヘミヤで問われているような、礼拝のささげものの問題、異教徒との結婚の問題、貧富の差の問題などが扱われており、同時代だと言って良いでしょう。

バビロン捕囚とその後の時代について、簡単に説明します。ダビデ・ソロモンの時代に絶頂期を過ぎたイスラエル王国はやがて偶像崇拜に陥り、分裂し、北はアッシリアによって滅ぼされて散り散りとなり、南はバビロンによって滅ぼされ、エルサレム神殿は破壊され、民はバビロンに連れて行かれます。

しかしその後、バビロン帝国を滅ぼしたアケメネス朝ペルシャ帝国の時代に、クロスという王によって帰国を許された民の一部は、エルサレムに戻ります。そこで、神殿を再建、エズラが宗教的指導者として宗教改革を行い、ネヘミヤは政治的なリーダーとして、エルサレムの城壁の再建に取り組みます。マラキ書の少し前にあるゼカリヤやハガイはエズラ・ネヘミヤの少し前の時代に神殿の再建を励ました預言者でした。

マラキ書が、エズラ・ネヘミヤと同時代だというのは分かるのですが、神殿再建の前か後かということは少し議論が分かります。どちらにせよ重要なのは、「アケメネス朝ペルシャ帝国に支配されていた時代」であり、その時代のイスラエルの民が、「苦難」と「疑い」のなかに置かれていたということです。

エズラ記・ネヘミヤ記にもあり、またマラキ書でも語られています
が、神の民は大きな「苦難」のなかにありました。

まず、民は貧しかったと言われます。3:11を見ると、このとき飢饉、自然災害に遭っていたようにも見えます。しかもペルシャの支配下にありますから、税金も払わなければなりません。神殿の再建の後だとすれば、このとき再建された第二神殿は貧弱だったとも言われます。「こんなはずでは…。もっとすごいことが起こると思っていた。思う通りの、祈った通りの結果になるとも思っていたのに、裏切られた…。」そのような思いがあったと思われます。2:17や3:14-15を読むと、逆に神を信じていない人々が豊かな生活をしていた現実があったことが分かります。

さらにアケメネス朝ペルシャの時代は「疑い」を引き起こす時代でした。ペルシャという国は、宗教的に非常に寛容で、資金援助してまでイスラエルの民をエルサレムに帰還させてくれました。しかし、宗教的に寛容な時代は、その時代特有の問題が起きます。あらゆる宗教が乱立し、周りにさまざまな宗教があると、この信仰が絶対ではないのではないかという疑いが起こります。自民族だけで固まっていた時代は良いでしょう。しかし、他宗教や異なる価値観との距離が近くなると、比較が起こり、自らの信仰を疑い始めたり、アイデンティティが分からなくなったりするものです。特に、自分たちが「苦難」のなかに置かれているとき、「その信仰に本当に自分たちを救ってくれるのか？」という問いが起こるのです。

そのなかで、神に従うことが馬鹿らしくなり、「失望」が起こり、その結果、礼拝において、また性において、あるいは経済的な問題、所有という問題において、妥協が起こっていったのです。

このように見ていくときに、マラキ書を含む預言書のことばが語られた時代は、驚くほどに現代と似ているように見えます。もちろん、

神は奇跡を起こすことはできます。また、神を信じる人がたくさん起こされるということを願っています。

しかし、一方で、華々しい奇跡は起こらず、神は沈黙しておられるように見える現実もあります。そのような困難と疑いと失望の時代に、神があえて私たちを遣わしてくださったのです。このような前提をもとにこれからマラキ書を学んでいきましょう。

1. 愛の証拠

マラキ書1:1～5

はじめに

マラキのことばを聞いた民は、経済的にも、また宗教的にも困難のなかにありました（参考：緒論）。マラキ書は神の愛の呼びかけから始まります。民がそれにどのように応えたのか。またそれに対して神はどのように応えたのか、見ていきましょう。

語句研究

- ・ エサウ・ヤコブ（1:2～4）…イスラエル人の先祖アブラハムの子イサクの二人の息子。エサウが兄であったが、神は母リベカに「兄が弟に仕える」と予告した（創世記25:23）。予告通り、ヤコブは食べ物と引き換えに長子の特権を獲得し（同25:29～34）、さらには父イサクを騙して長子の祝福を受けた（同27:18～40）。その後、ヤコブは逃亡し、さまざまな苦難を経て信仰が成熟、十二人の息子からイスラエル民族が形成された。イスラエル民族は何度も神に背いたが、それでも神は彼らを見捨てなかった。なお、エサウの子孫はエドム人で、オバデヤ書でその傲慢と神の裁きが語られ、その後絶えてしまった。

Introduction

聖書では「神は愛である」「神は世界を愛している」「神はあなたを愛している」と言われます。これを信じることはできますか。どのように神の愛を知ることができるのでしょうか。

1. 1:2を読みましょう。民は神の愛の呼びかけに対してどのように反応していますか。
2. 民が1:2のような反応をしたのはなぜでしょうか。共感できることはありますか。P.3-4の緒論を参考にしつつ、考えてみましょう。
3. 民の応答に対して、神はどのように応えていますか。1:3~4はイスラエルの民にとってどのような意味をもったと思いますか。
4. 1:5は現実からはかけはなれた宣言だと言われます。なぜでしょうか。また、このように神が語ったことにはどのような意味があるでしょうか。現代の世界においてこのように言うことはできるでしょうか。

おわりに

神の愛の宣言からマラキ書は始まりました。神の厳しい警告が始まる前に、エサウとヤコブの物語のなかに働く神の力、すなわち「選び」という事実を目を向けさせます。「エサウを憎んだ」という表現には違和感を覚えるかもしれません。しかし、神が裁かれるということとは聖書においてははっきりと書かれています。また、ヤコブが選ばれたことも、ヤコブに何かすごいことがあったのではなく、一方的な神の愛によって選ばれたとしか言いようがありません。聖書はこのような「選び」と、またそれぞれに責任があるという「自由意思」の両方を語っているのです。

また、1:5では、神は世界の王であるという事実を宣言しています。これは「いま」においてもそうですが、終末においてははっきりと目に見えるかたちで実現します。そこまで見据えて、神の愛を受け取りたいのです。

あなたは神の愛を知っているでしょうか。神の愛を本当に知っていくとき、マラキの命令は冷たい戒めではなく、神の愛の招きであると分かるのです。

2. 畏れはどこに？

マラキ書1:6～14

はじめに

1:2～5で神はイスラエルに対する愛を語られました。その上で、民への警告を発していきます。神が愛するゆえに、警告を語られているのだという理解は重要です。そうでないと、これからのみことばがただの冷たい戒めに聞こえてしまいます。

今回は民の捧げ物の問題を扱っていきます。民は貧しいなかにあったという事実（参考：緒論）も踏まえつつ、目に見える問題のさらに奥にある民の信仰の根深い課題に目を向けていきましょう。

語句研究

- ・ 汚れたパン（1:7）…「汚れ」は祭儀的な汚れを、「パン」は動物のいけにえを指すため、「規定に反した捧げ物」を意味する。
- ・ 7、12節の訳…直訳は「主の食卓は軽んじられた」あるいは「主の食卓は汚された」。それを放置するということは、そうしても良いということであると解釈され、新共同訳のように「軽んじられてもよい」と訳されていると思われる。
- ・ 主の食卓（1:12）…いけにえをささげる祭壇のこと。「食卓の果実」はいけにえのことであるとされる。
- ・ 総督（1:8）…ペルシャから派遣されたイスラエルの支配者。

Introduction

礼拝と聞いて何を思い浮かべますか。礼拝の祝福と課題について分かち合いましょう。

1. 1:6で神は何に例えられていますか。そのような存在には、どのような態度で接するべきだと語っているのでしょうか。

2. それにもかかわらず、祭司たちは神に対して規定に反した捧げ物を捧げていました。どのようなことをしていたか、挙げてみましょう。そのことの何が問題なのでしょう。

3. 規定に反した捧げ物をしていたという事実に加え、さらに根深い問題が彼らにはありました。それは何でしょうか（6、8、12、14）。なぜそのようになってしまったのでしょうか。私たちの現実と共通することはありますか。

4. 1:9-10ではどのように神の激しい怒りが描かれているのでしょうか。なぜ神はこれほどまでに怒っているのでしょうか。

まとめ

民の礼拝は分かりやすく崩壊していました。しかもその根っこには言い訳、正当化、怠惰、そして目に見える人の方を畏れるという価値観がありました。私たちの礼拝はどうでしょうか。教会・集会での礼拝への向き合い方、またそこから遣わされる日常の「礼拝」はどうでしょうか。全生活で神に従っているでしょうか。

1:11、14後半は当時まだ起こっていない出来事であり、予告としての宣言であると考えられます。正しい礼拝が世界中で捧げられるという予告はイエス・キリストにおいて始まり、終末において完成します。この希望を見つめながら、礼拝の回復に取り組んでいきましょう。

3. 「礼拝共同体」を保つ方

マラキ書2:1～9

はじめに

この箇所では祭司に批判が集中します。礼拝をささげているのは民全体です。しかし、警告を受けるのは祭司なのです。なぜでしょうか。ここで大切になるのが、「共同体」という視点です。礼拝は個人の問題ではなく、共同体の問題であるゆえに、その導き手である祭司が厳しく非難されているのです。

祭司は「礼拝共同体」の指導者として、律法を教え、民の礼拝を正す役割もっています。しかし、彼らは民がささげるひどい礼拝を黙認し、自らそのような礼拝のあり方を率先して行っていたのです。

語句研究

- ・ 汚物 (2:3) …ユダヤの祭で捧げられるいけにえの糞。レビ4:11～12によると、不要なものとされ焼き捨てられた。
- ・ レビとの結んだわが契約 (2:4) …神とイスラエルは、神がイスラエルを全世界の救いのために選び、イスラエルがそれに応えて神の戒めに従うという契約を結んでいるが、そのなかで、「レビ人」が、祭司を輩出する部族として、その職務を忠実に行うことが求められていることを指すと思われる。
- ・ 命 (2:5) …神との交わりのなかで得られる最も充実した生。
- ・ 平和 (2:5) …神との和解。

Introduction

あなたの教会（集会）や学内グループの良い点と課題に思う点を挙げてみましょう。

1. この箇所全体で、神は祭司たちに何を要求しているでしょうか。
2. 呪い（2:2）とは具体的にどのようなことでしょうか（2:3、9）。
3. レビとの契約の目的が「命と平和」であるとはどのような意味でしょうか（5～7）。
4. 祭司たちの現実はどのようなものでしたか（2:8～9）。なぜそのようになってしまったと考えられますか。

おわりに

このような警告を愚直に実行しようとしたのが新約聖書に登場するパリサイ人です。しかし、彼らもこの警告を実践することはできず、かえって実践できていると勘違いして、人を裁いていくという結果に終わってしまいました。彼らの姿を、マラキの時代の祭司たちの姿を思うとき、「人にはできない」（ルカ 18:27）という聖書のことばが思い起こされます。

しかし、それゆえに、神はそこにご計画のうちに、真の大祭司キリストを遣わされました。この方こそ、「礼拝共同体を保つ方」なのです。キリストは、この箇所にあるような本来の祭司の姿を実現しました。そして「呪い」を身に負い、十字架にかかることによって、罪深く、弱い私たち（共同体）の礼拝を、受け入れてくださるのです。

そして、キリストが聖霊にあって、私たちに一致を与え、私たちが自ら破棄したはずの「命」と「平和」を与えてくださるのです。そして、それがやがて終末において、完成するという希望を与えてくださったのです。

4. なぜ契約を汚すのか？

マラキ書2:10～16

はじめに

この箇所で問われているのは「結婚」というテーマです。

2:10は難解な箇所です。「我々」はイスラエル、「唯一の父」は、文脈から言ってイスラエルの民を選び、「創造」した「唯一の神」であると考えられます。ここで、結婚における罪は、そのような民が「互いに裏切」ることであり、そのような神と「先祖」が結んだ「契約」を汚すことであると言っています。

これは、結婚が個人的なことではないゆえに、それを汚すことは共同体全体と神との両方への悪であることを意味します。このような結婚観がこの箇所の前提となっているのです。

語句研究：

- ・ 契約（2:10）…神がイスラエルを全世界の救いのために選んだこと、およびそれに応えてイスラエルが神の戒めに従うという約束。戒めとは神を愛し、また神の民が互いに愛し合うことである（参考：マタイ22:37～40）。それゆえ、「結婚の誓約」も同じ重みをもつ（2:14）。
- ・ 忌まわしいこと（2:11）…偶像、あるいはそれに関連すること。
- ・ 聖なるもの／聖所（2:11）…いずれの訳も可能。
- ・ 2:15の訳…直訳は「彼は造ったではないか。彼に霊と残り（別訳：肉）。なぜひとつなのか。神の子孫を求めている」。明らかなのは、結婚は「神の子孫」を求めること、すなわち新しい信仰者を生み出す信仰継承を目的としているということであると考えられる。

Introduction

離婚、異宗婚（宗教の異なる男女が結婚すること）について疑問に思っていることを分かち合いましょう。

1. 「異教の神を信じる娘」との結婚について、神はどのような評価を下していますか。それはなぜでしょうか（2:11）。
2. なぜイスラエルの民はそのような結婚を選んだのでしょうか。（当時、異教徒の女性は裕福で美しく、イスラエル女性は苦勞しており、みずぼらしかったという指摘があります。）
3. イスラエルの民は異教徒との結婚をするために、「若いときの妻」と離婚したという指摘もあります。そのことも踏まえ、神が「離婚を憎む」（2:16）理由は何であると言われますか。（2:14、15）また、それが「不法」（別訳：暴力）とまで言われる理由は何でしょうか。
4. 結婚の契約を守り抜く者となるために、今できることは何でしょうか。どのように「霊（知性・判断力）に気をつける」ことができるでしょうか。

おわりに

結婚式の誓約をご存知でしょうか。神は契約に生きることを望んでおられます。偶像礼拝をやめて真の神だけを礼拝し、そして結婚の誓約を实践すること、言い換えれば家族を愛することを求めています。独身でも、今の家族に対し、また未来の配偶者のために、今から考え実践できることを実践していく必要があります。しかし、それはとても難しいように思えます。クリスチャン同士の結婚であっても、いろいろな痛みがあるでしょう。これは聞いた話ですが、クリスチャン同士である方が相手に厳しくなり「クリスチャンなのになんでこうなの！」と相手を非難し、傷つけ合って離婚に至る現実もあるそうです。

しかしそのような私たちを礼拝へと招き、神の愛を知り、愛する者へ、そして終末の希望を忘れない者としてくださるのも確かです。希望を抱きつつ、変えられやすい者となりましょう。

未信者との結婚や離婚の実際については教会のなかでも議論があります。牧師に自分の教会の立場を尋ねてみましょう。また、聖書のなかで、それがどのように描かれているか調べてみましょう。（ルツ、エステル、サマリアの女、パウロなど）。

5. 契約の使者が来る

マラキ書2:17～3:5

はじめに

2:17で再び民の問いが描かれます。それはこの世界に正義がないではないかという問いです。彼らが経済的にも宗教的にも困難のなかにあり、逆に神を信じておらず、悪事を働く者が栄えているという現状があったのでしょうか（参照：緒論）。

今日の箇所は歴史上クリスマスを待ち望むアドベントの時期に繰り返し読まれた箇所です。3:1の「わたしの使者」はバプテスマのヨハネとされ（マルコ1:2）それに続いて「主」が来られるのです。これが民への問いの答えでしたが、待つということは簡単なことではありません。

待つことの困難と祝福、そして来たるべき希望について共に考えましょう。

語句研究

- ・ 灰汁…現在で言う石けんのこと。
- ・ 精錬…当時は金や銀を熱する（精錬する）ことで、不純物を取り除いたとされる。

Introduction

あなたは待つことが好きですか。どんなことなら待つことができますか。

1. 2:17で民はどのような問いを発していますか。なぜそのような問いを発したのでしょうか。

2. 3:1は2:17への神の応答ですが、民の問いに対してどのように答えているのでしょうか。（「待望している」、「喜びとしている」は文脈を考えると皮肉であると考えられます。）

3. 「契約の使者」は何を行うのでしょうか（3:2～5）。

4. 精錬する火、灰汁で洗うこと（3:2、3）の比喻は民をどのように取り扱うことを意味するのでしょうか。

5. 3:3後半、4は、精錬され、洗われた結果実現することであり、最終的には終末において実現すると考えられます。このような希望が描かれていることの意味は何でしょうか。

6. イスラエルの具体的な罪（3:5）について挙げ、私たちにあてはめてみましょう。「わたしを畏れぬ者」となっていないでしょうか。

おわりに

神を待ち望むことに疲れ、疑い、不平をもらし、罪を犯す民のもとに、神は「契約の使者」としてキリストを遣わされました。

キリストはこの地に生き、十字架にかかり、教会にその使命を引き継ぎ、聖霊を遣わして、苦難のなかで、教会をきよめ、精錬してください。

ここに書かれてあることのなかには、やがてイエス・キリストが再び来られるときに実現することもあります。私たちは完成の日を待ち望むという第二の「アドベント」を歩んでいるのです。

6. 喜びの国となるために

マラキ書3:6～12

はじめに

この箇所描かれている「十分の一の捧げ物」の記述はおそらくマラキ書のなかで最も有名であり、引用される箇所でしょう。しかし、この箇所はただ「献金をしろ」と言っているだけではありません。その深い意味について、一緒に学んでいきましょう。

語句研究：

- ・ 3:6…直訳は「終わりが無い」であり、新改訳（滅ぼし尽くされない）は意識である。
- ・ 十分の一の捧げ物…祭司・レビ人（礼拝のために働く人々）のために用いられた。申命記12章や14章によると十分の一は民が神の前で食事をするためにも用いられた。さらに、申命記14章によると、寄留者（外国人）・孤児・寡婦（未亡人）などの社会的弱者のために用いるようにも命じられている。
- ・ 献納物…高く挙げて再び下に置くことによって、一度神にささげられたものを祭司・レビ人が神から受け取る、ということを示した献げ物。
- ・ 天の窓が開く…直接的には雨が降ることを意味し、農業的な豊かさに直結する。

Introduction

優先順位に悩むことはありますか。普段の生活で、どのような点で悩むでしょうか（勉強、バイト、人間関係、教会、KGKなど）。

1. 3:6～7では神の愛がどのように描かれていますか。

2. 民はそれに対してどのように応答していますか（3:7）。なぜこのような問いを發したのでしょうか。

3. なぜ十分の一の捧げ物、献納物を捧げないことが、神を偽る（盗む）行為なのでしょう（レビ25:23）。この視点から、私たちが「優先順位」をどのように考えるべきであるかが分かりますか。

4. 献げたときに何が起こると言っていますか（3:9～11）。ここから、神がどのような方であるということが分かりますか。

5. 持ち物を分かち合い、礼拝を大切にする（十分の一の捧げ物、献納物を大切にする）交わりは諸国の民から何と呼ばれるのでしょうか。私たちはどのようにライフスタイルを変えていくべきでしょうか。

おわりに

神に従うとき、祝福を受けます。もちろん、必ずしもいつも物質的
祝福が伴うわけではありません。しかし、その一方で逆に物質的な繁
栄を悪とみなすことも誤りです。もちろん、物質にとらわれたり、崇
拝したりしてはいけませんが、それが与えられたなら感謝して受け取
れば良いのです。

しかし気をつけたいのは、それもまた私たちのものではなく神のも
のです。神のために、また隣人のために喜んで手放すことができるの
です。そしてそのような分かち合う生き方、愛する生き方そのものが
「全生活を通しての証」なのであり、「祝福」であるのです。このこ
とを前提として、優先順位の問題に取り組むのです。

7. 思い起こせ

マラキ書3:13～24[新改訳：3:13～4:6]

はじめに

いよいよマラキ書の学びも最後になりました。

この箇所冒頭にある問いはマラキ書の時代の民の最後の叫びであり、現代にも共通するような非常に痛烈な問いです。それに対して、最終的な回答がマラキを通して描かれます。

語句研究

- ・ 主を畏れ敬う者たち (3:16) …マラキ書で初めて、しかも唯一登場する、民の直接的なリアクションであり、ここから神の態度が、正反対に変わるため、ここまで1章からずっと告発され続けてきた民のなかの悔い改めたグループであると考えられる。
- ・ 思う (3:16) …尊ぶ、心に留める、大事にする。
- ・ 翼 (3:20) …太陽の光線

Introduction

あなたは世界の終わり（終末）についてどのようなイメージを持っていますか。

1. 民の神への疑いの内容を確認しましょう (3:13～15)。なぜそのような思いを抱いたのでしょうか。3:14、15のように思ったことはありますか。

2. 3:16を見てください。何を「互いに語り合った」と思いますか。なぜ彼らは悔い改めたのでしょうか。

3. 「その日」（新改訳：私が事を行う日）において何と何が区別されるでしょうか（3:18）。それはどのようなものでしょうか（3:17～21[4:3]）。それはどのように民の疑いに答えるでしょうか。

4. 「モーセの教え」（3:22[4:4]）とは律法であり、マラキの教えの前提です。どのようにそれを思い起こし続けることができるでしょうか。

5. 預言者エリヤは何をすると予告していますか。それは何のためですか。

おわりに

エリヤの到来の予告はバプテスマのヨハネで成就し、破滅（呪い）はイエス・キリストが負われました。新約の時代を生きる私たちは、このすばらしい事実を知っており、今は再びイエス・キリストが来られる日を待ち望んでいます。

マラキがこれまで語ってきたのは終末に至る旅路を歩む私たちの生き方でした。それは真新しいものではありません。モーセがすでに語ったことであり、神を畏れ、人々に仕えることに尽きます。しかし私たちは、基本ほど忘れやすいのです。だからマラキは「思い起こせ」と語るのです。

私たちは忘れやすい者であるから、記憶し直し続けるのです。学内・ブロック・地区で、そして何よりも毎週の礼拝において。交わりで、みことばを聞き祈ること。これがすべての始まりなのです。

<文献>

□聖書

新共同訳聖書

新改訳聖書（第三版）

関根正雄『十二小預言書（下）』（岩波書店、1967年）

"New American Standard Bible"

"Hebrew Interlinear"

□辞書

『新共同訳聖書 聖書辞典』（新教出版社、2001年）

□注解

千代崎秀雄「マラキ書」『新聖書注解』（いのちのことば社、1973年）

アクティマイアー『現代聖書注解 ナホム書—マラキ書』（日本キリスト教団出版局、1990年）

山口勝政「マラキ書」『実用聖書注解』（いのちのことば社、1995年）

□その他

石原献二『マラキ書の様式について』（立教大学修士号取得論文、2011年）

神の愛と正義～マラキ書を読む～

発行日 2014年2月19日

著者 塚本良樹

発行者 キリスト者学生会

〒101-0062

東京都千代田区神田駿河台2-1 OCCビル
内

Tel.03-3294-6916

Fax.03-3294-6050

e-mail office@kgkjapan.net